

日 時	令和 5 (2023) 年 12 月 15 日 (金) 14:00~16:00
場 所	幸田町教育委員会
出席者 (敬称略)	(仮称) 幸田町郷土博物館建設検討委員会 黒柳孝夫 (愛知大学 名誉教授) ※委員長 荒井信貴 (愛知学院大学 講師) 神谷 浩 (徳川美術館 副館長) 武村雅之 (名古屋大学教授) 岩下英司 (深溝小学校 校長) 池田和博 (幸田町教育長) 事務局 幸田町教育委員会 文化スポーツ課 菅沼秀浩 (教育部長) 夏目守雄 (次長兼課長) 志賀光浩 (スポーツ G 特命専門員) 神取龍生 (文化 G グループリーダー/主任主査) 稲垣彩乃 (文化グループ) 株式会社 丹青社 森 富弘 崎山幸子 久保はるか
目 的	第 3 回委員会

I. 委員長挨拶

- ・ 過日、町長と面会し、建設場所、予算規模、博物館への考え方の 3 点を確認できた。建設場所は、図書館西側エリアの提案で問題ない。予算規模もお示しいただいた。

1. 配布資料の確認等

- ・ (委員長) 前回議事録を配布した。修正すべき点等、ご意見あれば頂戴したい。ご意見はない様子であるため、議事録の確認は以上とさせていただく。
- ・ (事務局) 70 周年記念誌用の通史を配布した。作成中の原稿であるが、今回の構想にも関連する内容と思われる。今後参考にしていただきたい。

II. (仮称) 幸田町郷土博物館基本構想について

- ・ (事務局) 前回からの主な修正点等、資料説明

2. 第 2 章 基本理念と方針：「(仮称) 幸田町郷土博物館に期待される役割」について

- ・ (事務局) p17 「(仮称) 幸田町郷土博物館に期待される役割」の文言にご意見いただきたい。
- ・ (委員) 「幸田町の歴史文化に関する、知の観覧車」、「昔と今を考える交差点」「歴史文化に関する知の万華鏡」等はどうか。観覧車は、遠くからみると止まっているようにみえるが、実際は止まっていない。歴史や文化の営みが、永続的にこれからも絶え間なく動いているというイメージだ。「交差点」「万華鏡」は平凡か。

- ・ (委員) ハブ機能の図に対する文言としては「観覧車」が適切かと思う。
- ・ (委員) 漢字 2~3 文字の方が伝わりやすい。「宝箱」は隠してしまう印象を受ける。「万華鏡」は広がりがある。「観覧車」は面白いが、タイトルの文言としてはなじみがない。説明として「観覧車のように～」と使うのは良いと思う
- ・ (委員) p20「新博物館の基本理念」の「ディスカバリー・ミュージアム」と、p17「(1) 幸田町の歴史・文化を核に、情報と人を『集め、つなぎ、広げる場』」の関係はどのようなものか。
- ・ (事務局) p17は「期待されている役割」を整理したものである。それをふまえて、博物館はどのようなことを重視していくかということの一つに整理したものが p19 以降の「基本理念」になる。博物館を最も特徴づける表現として p20 の枠で囲まれた「新博物館の基本理念」に集約した。
- ・ (委員) p20 の博物館の基本理念にある「ディスカバリー・ミュージアム」から、唐突な印象を受ける。基本理念はこのままとして、その前に、基本理念につなげることばを入れれば良いだろう。「～創出することを博物館の基本理念とし、ディスカバリー・ミュージアムとする」としてはどうか。
- ・ (事務局) 「ディスカバリー」ということばは、歴史・文化だけでなく、博物館の基本的な姿勢として位置付けてはどうかと考えている。設計の段階で、施設全体の方向性にも影響することばだと考える。多様な利用者を想定している。
- ・ (委員) 「ディスカバリー」は良いと思う。将来的に島原や深溝松平家等と幸田町が結びついて、広がっていくことも想定し、「ディスカバリー」という視点で町民に伝えられると良い。
- ・ (委員) 「ディスカバリー」は「観覧車」ともうまくつながるかもしれない。俯瞰的な視点が似ている。一つ筋の通ったシナリオになるのではないか。
- ・ (事務局) p17は「観覧車」とするか、「万華鏡」とするか。「観覧車」は「ディスカバリー」とつながりやすいと考えている。
- ・ (委員) 「観覧車」で進めていけばどうか。
- ・ (事務局) 承知した。

3. 第2章 基本理念と方針：三河地方における位置づけについて

- ・ (委員) 博物館が三河地方の新しい文化拠点となり、三河地方の発展に貢献するといったニュアンスがあっても良い。幸田町の役場にも蒲郡や岡崎の人がいる。視点を広げることで、博物館の必要性が町民により伝わるのではないだろうか。
- ・ (事務局) 幸田町から三河地方に発信できることも多々あるだろう。三河の中における位置づけ、他の地域との連携や歴史のつながりなどを考えていくべきだ。
- ・ (委員) 深溝松平とのつながり等、「へ～」と思う人もいようだろう。

4. 第2章 基本理念と方針：「登録博物館」「公開承認施設」について

- ・ (事務局) p25「施設整備の方向性」の②において、「登録博物館」「公開承認施設」の両方を記載している。バリアフリー関連の事項も加筆した。
- ・ (委員) 公開承認施設を理想として掲げるのは良い。しかし、ハードルは高いことは理解しておくべきである。

5. 第2章 基本理念と方針：その他

- ・ (委員) p15 や p19 にマイナスな印象を受ける文章表現がある。書きぶりを工夫いただきたい。
- ・ (委員) p19 「(3)「出会い」「学び」が幸せにつながる場」の「①本物との出会いと学びにより、豊かな生き方、幸せにつながる場」の項を修正いただきたい。「心の幸福」が二度登場する。また第1項目は、二つの話が混在しているため、分けたほうが良い。
- ・ (委員) p19 の「(3)「出会い」「学び」が幸せにつながる場」は「出会う楽しさ」と「学ぶ喜び」で分けた方が良いだろう。

- ・（事務局）承知した。修正する。

6. 第3章 事業活動構想：利用者サービスについて

- ・（委員）p36「(2) 事業活動の展開」の利用者サービスの展開案について、博物館、図書館、町民会館それぞれの機能を相互補完する視点は重要だろう。
- ・（委員）展開案に、博物館が町民会館や図書館の施設用途を補完して、柔軟に利用者サービスに対応するといった文言を入れると良い。博物館が一方的に他施設を利用するのではなく、図書館や公民会館に必要されている機能を博物館で補うといった考え方である。
- ・（事務局）承知した。加筆修正する。

7. 第3章 事業活動構想：図書館の機能補完（ギャラリー機能、学習機能）について

- ・（委員）どちらも図書館で不足している機能であるならば、学習室よりは、ギャラリーの方が博物館の機能としてふさわしい。学習室は博物館になじまない。
- ・（委員）少しでも実現可能なものを考えるならば、博物館機能に固執するのではなく、広く一般の理解を得らえるような折衷案を考えなければならない。
- ・（委員）そういう発想で何でもかんでも通してしまうと、博物館の価値を落としてしまうと思う。足りない機能をすべて博物館で受け入れると博物館としての魅力がなくなっていく可能性もある。安易に何でも引き受けるようなことはやらない方が良い。
- ・（委員）幸田町では、曖昧さを残しておかないと施設への愛着を醸成するのが難しい。町民にご理解をいただくためには、博物館設置に賛同する仲間がほしい。
- ・（委員）本来であれば3施設で役割分担を検討すべきであろう。
- ・（委員）補完する機能との相性は、施設名称にも左右されるだろう。施設名を「博物館」とするか、別とするか。
- ・（委員）「ミュージアム」とするなら、違う印象を与えるかもしれない。

8. 第3章 事業活動構想：ギャラリー展示について

- ・（委員）町民会館と図書館におけるギャラリー機能との棲み分けは考えているのか。
- ・（委員）図書館のギャラリーは、見るには利便が良いが、手狭であるという意見がある。もう少し広くてしっかりしたギャラリーがほしいという意見がある。
- ・（事務局）ギャラリーは、室として独立させるのではなく、ギャラリーとして利用できる空間を設けるイメージでいる。
- ・（委員）ロビー展示はやむを得ないだろう。ギャラリーとして本格的に室を設けるのではなく、ちょっといいロビーで展示ができるというかたちが妥当かと思う。
- ・（委員）ギャラリーは博物館の展示と出入口を分け、別運営できるようにした方が良いだろう。
- ・（委員）ギャラリーも学習室も、博物館がイベントを行っていない期間の利用が望ましい。
- ・（委員）空いているときに使ってもらう場合の優先順位は、示す必要があるだろう。（武村委員）
- ・（委員）「柔軟」という文言がある。「使えない場合もある」といった意味も含めるのも不可能ではないだろう。
- ・（事務局）承知した。文言はこのままとする。

9. 第3章 事業活動構想：体験展示について

- ・（委員）p31の「常設展示の内容」表において、「体験展示」はほかの各展示に付随するものだと分かるように、「体験展示」の表現を修正してはどうか。
- ・（事務局）承知した。

10. 第4章 展示構想：歴史の時代区分について

- ・（委員）「幸田の歴史」は各年代を教科書的に分けるのではなく、例えば「ちょっと昔」「昔」「超昔」

というような、大胆な分け方をしたほうが良い。たとえば、菱池の干拓前と明治時代の干拓後とで分けるというように、大胆な展示計画を立てても良いと思う。

- ・ (委員) 大胆に括るのは重要だろう。名古屋市博物館のように可変的なブースを使いながら、常設展示も変化するという発想を持つと良い。
- ・ (委員) 「池があったころ」「池がなくなってから」といった大胆な区切り方で良い。
- ・ (委員) 小学生は、6年生になってやっと歴史を学ぶ。4年生で菱池を知るが、3年生以下だと伝えるのは難しい。小学校では長い歴史のわずかな部分を扱うのが精一杯といったところだ。6年生でも時代区分を覚えるのは容易ではない。
- ・ (委員) 教科書通りに区分する必要はない。大まかな括り方のほうが分かりやすい。ユニークで親しみやすい。
- ・ (委員) 大まかな時代区分にするというスタンスで、専門的な要素が出てくる展示の場合は、「平安時代」「中世」「江戸時代」等の文言を使っても良い
- ・ (委員) 各時代を均等に展示するよりも、軽重をつけたほうが良いだろう。
- ・ (委員) お侍さんがいた時代、お侍さんがいた前の時代等というように、人を中心に分けたり、稲作伝来の前後等で分けたりしても良い。大まかな括りで分けた方が理解しやすいだろう。
- ・ (事務局) 「昔」「超昔」「大昔」というのは、現代を軸において時代をさかのぼるということか。常設展示に通史的なところがあって、流れとしては、過去から現在に下るという考え方が基本だが、そうではなく今に軸を置いてさかのぼるということでは間違いはないか。
- ・ (委員) 池があった時代、干拓した時代、という大きな変化を伝えるのが良いのではないか。さかのぼるという意識はない。大きな変化を通じて生活や人々の様子が変わったことを説明すると分かりやすいのではないかと考えた。このような展示はほかには見られないと思う。
- ・ (委員) 我々の菱池のイメージは干拓後だが、令和8年時点では現在からさらに変化する。池の時代から田んぼの時代、遊水池の時代という3段階のイメージになるのではないか。

11. 第4章 展示構想：地形や土地利用の変遷に関する展示について

- ・ (事務局) p39に概覧展示として菱池を中心とした展示を記載している。床面に菱池の様々な時代の姿をプロジェクションマッピングで投影して感覚的に子どもたちに紹介するイメージで、具体的な展示に入る前の一つのコーナーあるいは室として考えている。その場合「超昔」はどうするのか。
- ・ (委員) 減災館の床に名古屋市の地図を設けており、評判が良い。来館者は住んでいるところを指したりして、長い時間滞在している。地図にはプロジェクションマッピングを投影している。地図を見ながら歴史の話をする、興味を持って聞いてもらえる。断層の話だけでは面白くない。プロジェクションマッピングを通して、断層の話に持っていきような工夫が必要だ。
- ・ (委員) 明治のはじめに菱池があるならば、迅速測図が残っているかもしれない。減災館の展示では、地形図の変遷も人気がある。来館者は自分が住んでいる場所の昔の姿を確認している。
- ・ (事務局) 明治17～18年くらいから干拓が始まっているので、それ以前の明治10年代頃の公的な図があればできるかもしれない。それ以前なら村絵図になる。
- ・ (委員) 絵図は正確な地図ではないので、簡単には重ねられない。現在の詳細な地形図や航空写真があれば、昔の地形は推測できるだろう。今、自分たちが見ている地形から推測した展示も意外と面白い。今の地図から昔の様相が残っていることを知ると、昔とのつながりが感じられる。
- ・ (事務局) 昔の池が広がっている地図を提示すると、相見駅は池のなかにある。展示には気を付ける必要がある。
- ・ (委員) そういうことを調べに来る人が多いということが重要だ。情報をゆがめない方が良い。海岸部の埋立地は誰だって海だと知っている。
- ・ (委員) 土地の課題等を克服していまの生活があると伝えられると良い。

12. 第4章 展示構想：その他

- ・（委員）幸田町だけでなく、より広がりのある内容に修正いただきたい。
- ・（委員）幸田以外の地名を入れるだけでも印象が変わるだろう。
- ・（事務局）承知した。修正する。

13. 第5章 管理運営構想：人員体制について

- ・（事務局）スタッフの人数や構成等、ご意見いただきたい。
- ・（委員）p41の表に記載の「システム担当」の業務は何か。
- ・（事務局）データベースに関連する業務である。データベースの構築だけでなく、展示や幸田町のさまざまな事業にコンテンツを活用することを想定しており、幅広い業務が発生することが考えられる。そのため、学芸系業務のなかに位置付けている。
- ・（事務局）人数の根拠は必要であろう仕事内容から積み上げた。今後精査する。
- ・（委員）学芸系業務で難しいのは教育普及だ。教育普及専門の担当を置かず、全員で分担するなど検討したほうが良い。博物館の展示内容をふまえると、教育普及は重視していただきたい。規模に対して学芸5名は多いようにも感じるが、教育普及の充実や登録博物館として必要な機能等をふまえると、これで進めて良いだろう。
- ・（事務局）岐阜の美濃加茂市民ミュージアムは、学校教育との連携を重視している。専門職員がおり、館側も学校側も助けられていると聞く。
- ・（委員）安城市博物館は学校教育との連携を前面に出してつくられた。当初は学校の先生が派遣されていた。現在は教員OBを雇用している。豊橋市自然史博物館は、学校の先生が常駐していた。
- ・（委員）刈谷市歴史博物館は、現役の教員を置いている。

14. 第6章 施設構想：施設配置パターンについて

- ・（事務局）p65「（3）施設配置の検討結果」に「図書館西側エリア」が適切であると記載した。B案C案は駐車場の代替案を検討する必要があるが、建設予定地としては適切であると考ええる。
- ・（委員）B案C案でどの程度駐車場台数を確保できるのか。今後調べていただきたい。
- ・（委員）調整池の上に建設できないのかなど検討が必要。名古屋市博物館の敷地前芝生は池であるが、国宝・重要文化財を並べている。地下は民俗と考古関係の収蔵庫である。文書や漆器や彫刻等の収蔵庫は地上階にある。
- ・（事務局）思索の森そのものが調整地であるため、調整池機能を担保しなければならない。さらに用途変更をしなければならないので、手続きに膨大な時間がかかる。
- ・（委員）下に調整池がある敷地は、そもそも博物館建設に適していない。建設コストが拡大する。
- ・（事務局）収蔵環境を維持するための除湿等、維持管理費が拡大する。

15. 第6章 施設構想：意匠、設計者について

- ・（委員）p52にある「意匠的な調和」は重要だが、町民会館や図書館と調和させるとあまり面白くない。目立つ場所であるので、ふさわしい意匠としてほしい。
- ・（委員）意匠は、設計の進め方にも左右される。最近ではプロポーザルで決める必要があるだろう。その際、ゼネコン系と設計事務所系の両方が参加するので、どのような指標で採点するのか今後精査する必要がある。
- ・（委員）ある程度設計と施工で連携できるような会社が良いだろう。著名な建築家に依頼して、使いづらい博物館になったという事例がたくさんある。意匠にこだわりすぎると悪目立ちする可能性がある。ある程度の調和は必要だと思う。
- ・（委員）美術館はコンセプトualで挑戦的なデザインの建築もあるが、博物館は堅実なイメージのものが良いだろう。どのゼネコンでもある程度のものができよう。

16. 第6章 施設構想：その他

- ・（委員）p46②の「敷地北側にある小規模な駐車場等」はどこを指しているのか。
- ・（事務局）敷地北側、「芝生広場」の周囲を取り囲む駐車場である。表記が分かりにくいので改める。
- ・（委員）想定されている予算に収まるのか。
- ・（事務局）今後業務を進めるにあたって、調査する。（神取主任主査）
- ・（委員）p52「図書館に博物館のライブラリー機能を委ねる」は過剰である。
- ・（事務局）承知した。修正する。

6. 今後の流れについて

- ・（事務局）修正は委員長に確認して進める。第4回委員会は2月22日である。パブリックコメントをふまえた最終的な検討を進める。

III. 閉会挨拶

- ・（教育長）外部の意見をいただき、有意義であった。幸田町だけに視点をもつのではなく、外にも視点を持つ必要性を改めて感じた。引き続きお願いしたい。